

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	25人	算数	25人	理科	25人
第5学年	国語	17人	算数	17人	理科	17人

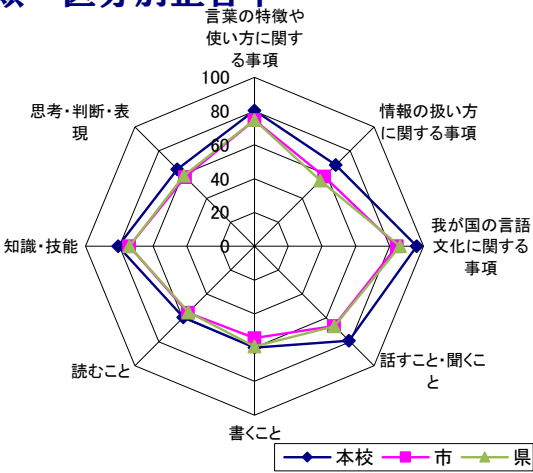
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.4	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	68.0	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	96.0	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	79.0	66.7	66.9
	書くこと	60.0	54.3	59.3
観点	読むこと	59.5	55.6	55.2
	知識・技能	80.7	74.1	74.0
	思考・判断・表現	64.5	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

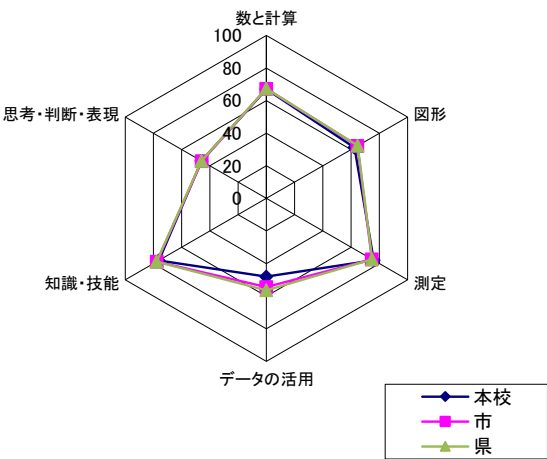
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字の読みと書きの設問については、正答率が高く良好である。日々の家庭学習の定着の成果があると考えられる。 ●主語と述語の理解について課題が見られる。	・漢字を正しく読むことや書くことの既習内容を定着させていくために、確認として小テストを行ったり、新出漢字を意図的に使って短作文を書かせたりするなど、繰り返し指導していく。 ・国語の授業で、主語と述語を意識した読み取りをさせたり、教科書の文の主語や述語に線を引く活動を取り入れたりすることで、文の組立を理解できるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○国語辞典の使い方を理解し、文脈から意味としてふさわしいものを選ぶことができています。	・今後も国語辞典を活用した学習を意図的に設け、資料を読み取り、必要な情報を選ぶ場面を国語の学習だけでなく、社会や総合的な学習の時間など他教科においても取り入れることで、適切に資料を活用して表現できるようにする
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字のへんやつくりについてよく理解できている。1つ1つの漢字について、読み書き、熟語、部首などの説明を相互にさせながら、丁寧に漢字練習に取り組んできた成果であると考えられる。	・今後も漢字の学習時に、漢字の成り立ちや部首について取り上げることで、「へん」や「つくり」についての理解を深めていく。また、漢字練習の時に熟語や部首を意識して練習することの習慣付けを図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながらまとめることがよくできている。 ●参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く設問では、県や市の正答率を上回っているものの56.0%と低い。	・今後も、授業や学校生活の中で、自分の考えの理由を挙げながら話したり、話の意図を考えながら相手の話を聞いたりする機会を計画的に設ける。 ・話し合い活動で、司会の役割を経験させながら、参加者の意図を考え、発言をまとめる活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○指定された長さで文章を書くことができるかみる設問では、県の正答率を8.7ポイント上回った。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる設問では、県の正答率を4.5ポイント下回った。	・今後も、自分の考えを時間や量を決めて書く場面を意図的に設定していく。 ・国語の授業などを通して、段落構成を意識して記述することや、多くの条件について考えながら記述することを継続して指導していく。
読むこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○物語や説明文の叙述を基に、人物の心情や内容を読み取り解答を選択する設問では、正答率が高い。 ●叙述を基に、文章の内容をとらえることができるかをみる設問では、正答率が低く課題が見られる。	・今後も、国語だけではなく他の教科でも様々な文(物語、説明文等)を読み、その内容や登場人物の心情について考える機会や、読解力を問う問題に触れる機会を作る。 ・物語や説明文の学習において、段落ごとの読み取りをしたり、構成を考えさせたりする活動を設ける。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.0	67.3	67.4
	図形	62.4	64.5	64.7
	測定	76.0	74.7	74.9
	データの活用	48.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	76.2	77.6	77.8
	思考・判断・表現	46.0	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

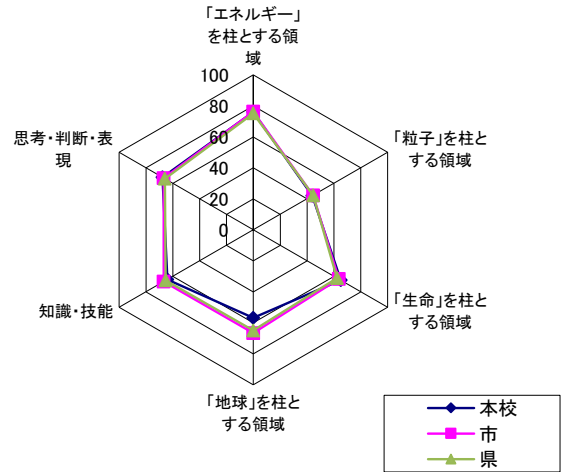
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ○同分母の真分数＋真分数＝真分数の計算がよくできている。 ●□を使って問題の場面を図に表すことができるかどうかをみる設問では、正答率が36.0%と低く課題が見られる。	・基本的な計算の技能を身に付けることができるように、がっちり学習の時間やAIDリルを活用して定着を図る。 ・算数の授業で、問題場面を図に表す活動を取り入れ、立式までの過程を理解できるようにする。
図形	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ○二等辺三角形を作図することができるかどうかをみる設問は、よくできている。 ●半径と直径を理解し、球の性質を利用し長さを求めることができるかどうかをみる設問では、県や市の平均を12.7ポイント下回り、課題が見られる。	・今後も、作図をする活動を意図的に設け、コンパスやものさしを正しく使うことができるようにする。 ・図形が出てくる授業の際に、関係図形の性質を復習したり、がっちり学習の時間などに、図形の性質を使った問題に繰り返し取り組ませたりして、図形についての定着を図る。
測定	平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○地図から道のりを読み取って、その和を求めることができるかどうかをみる設問では、道のりの意味をよく理解しており、正答率が92.0%と高い。 ●身近なものの重さについて、およその見当を付けることに課題が見られる。	・今後も、授業や日常生活の中で、道のりや距離を考えさせる機会を意図的に設ける。 ・身の回りのものの長さや重さ、その単位を意識させ、生活経験を通して見当を付けることができるよう、指導していく。
データの活用	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ●1目盛りの数が異なることに注意して2つの棒グラフを読み取る設問は、正答率が12.0%と低く課題が見られる。	・1目盛りの大きさに注目しながら数直線やグラフを読み取る活動を、社会や総合的な学習の時間などにも取り入れることで、繰り返し指導し、グラフを正しく読み取ることができるようにしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.0	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	44.0	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	65.1	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	56.8	66.6	64.9
観点	知識・技能	64.0	66.8	65.4
	思考・判断・表現	67.7	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均よりやや高く、市の平均とほぼ同じである。 ○鏡で反射した光の進み方を理解しているかどうかをみる設問では、正答率が非常に高い。日常生活を想起しながら理解することができていると考える。 ●実験の結果から、電気が流れるつなぎ方を推測できるかどうかをみる設問では、県の平均を8ポイント下回っている。	・今後も、授業で扱う内容と日常の事象を結びつけて考えることができるように、身近なものを例に挙げながら授業を展開していく。 ・実験の結果を共有する際に、結果のみに着目するのではなく、結果から考えられることを自分の言葉でまとめる活動を意図的に設ける。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均よりやや低い。 ○ものの重さから、同じ種類の木でできている積み木を推測できるかどうかをみる設問では、県や市の平均を上回り、正答率が高い。 ●姿勢を変えて測った体重が変化するかを、実験の結果をもとに記述できるかをみる設問について、課題が見られる。	・今後も、実験しながら学ぶ場を多く設けることで、経験を根拠に問題に解答できるようにしていく。 ・実験結果から、日常の似通った事象はどうなるかを推測できるようにするために、映像や写真を用いたり、キーワードを示したりしながら場面を示すことで、考えを広げるような活動を意図的に設定する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い ○昆虫の体のつくりの特徴を理解しているかどうかをみる設問は、正答率が非常に高くよくできている。 ●ホウセンカの成長について理解しているかどうかをみる設問では、正答率が低く課題が見られる。	・今後も、観察するときの視点を与え、共通点や相違点に気付けるようにしたり、映像教材を活用して要点を示したりすることで、昆虫の体についてより理解を深めることができるようにしていく。 ・観察記録からどんなことが分かったか、何に気付くことができたのかを学級全体で話し合いながら確認し、植物や生き物への理解を深めることができるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ○日なたと日かげの地面の温度の変化を理解しているかどうかをみる設問では、県の平均を10.5ポイント上回っている。 ●太陽の位置の変化を方位で理解しているかどうかをみる設問では、県と市の平均を大きく下回り、正答率が低い。	・今後も、生活の中で、理科学的な視点をもって様々な事象をみるよう、働きかけていく。 ・日常的に、方位を用いて位置を示す活動を意図的に取り入れ、方位の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習面では、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強している」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合が県や市の平均より高く、計画を立て意欲的に家庭学習に取り組んでいることが分かる。

○学ぶ意欲では「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」などすべての項目に関して市や県の肯定割合を上回っていて何事にも前向きな児童が多いことがうかがえる。

○学校での様子について「毎日の生活がじゅう実していると感じる」や「学校のきまりを守っている」などのすべての項目において肯定割合が市を上回っている。学校では決まりを守って充実した生活が送れているということがうかがえる。

○授業への取組については、「友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の肯定割合が88%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」が65%で県や市の平均より10ポイント以上高い。今後も分かりやすく工夫した授業づくりを行い、話し合いや発表などの活動の充実も図っていく。

○家での生活では、「毎日朝食を食べている」が100%、「早寝早起きを心がけている」の肯定割合が88%、「睡眠時間が8時間以上」が92%で県や市の平均より高く、比較的規則正しい生活を送っている児童がほとんどである。

○自分自身のことについてすべての項目において市の肯定割合を上回っており、自己肯定感の高さがうかがえる。

○全体的に、「毎日の生活が充実している」の肯定割合が94%、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」が82%で県や市の平均より10ポイント以上高い。生活が充実しており、何事も前向きな児童が多いことがうかがえる。

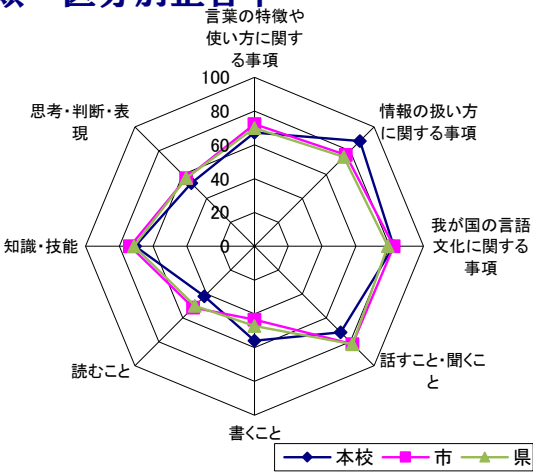
●読書については、ふだん(月～金曜日)1日当たり1時間以上読む割合は市や県の割合よりも約1ポイント低い。今後は朝の読書の時間を活用し、幅広い分野に興味をもたせたり家読を推進したりしながら継続して読書の時間がとれるようにしていく。

●テレビの視聴2時間以上が60%と、市の肯定割合を6.6ポイント上回っており、テレビゲームの使用2時間以上が40%と市の肯定割合を0.5ポイント上回っている。スマートフォンやゲーム等の扱い方や基本的な生活習慣の大切さを家庭と協力しながら支援していく必要がある。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.3	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	88.2	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	82.4	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	72.1	81.9	82.0
	書くこと	55.9	43.5	47.2
観点	読むこと	41.9	51.4	49.8
	知識・技能	70.6	73.6	71.3
	思考・判断・表現	52.9	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

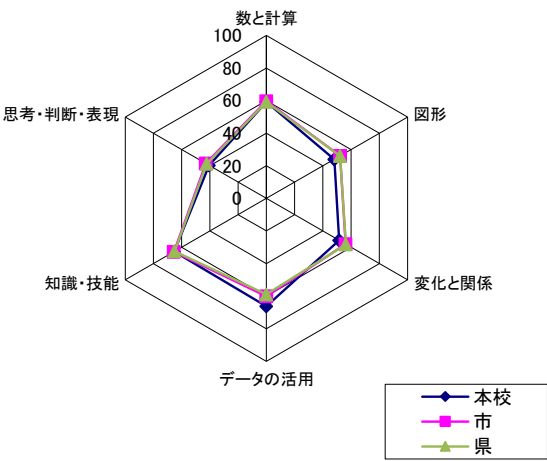
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県や市の平均より低い。 ○修飾語を選ぶ問題への正答率は、市の平均より1.3ポイント上回った。 ●漢字の読み書きについては、無回答率も高く、課題が見られる。	・物語や説明文の読み取りの活動においても、文のつくりを考える時間をとり、修飾・被修飾の関係について理解を深める。 ・定期的に漢字小テストを実施し、新出漢字の定着を図っていく。また、音読や読書などを通して漢字の使い方や読み方を復習していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○漢字辞典の使い方については、よく理解できている。	・新出漢字や既習漢字など、折に触れて辞書を引く活動を引き続き取り入れていく。 ・資料を読み取り、必要な情報を選ぶ場面を国語の学習だけでなく、社会や総合的な学習の時間など他教科においても取り入れることで、適切に資料を活用して表現できるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は県の平均より高く、市の平均と同じである。 ○ことわざの意味を正しく理解し、文に合ったものを選ぶことができている。	・ことわざや慣用句などを調べる活動を取り入れ、多くの言葉に触れる機会を増やし、語彙力を高めることに繋げていく。また、覚えたことわざや慣用句を使う活動も合わせて行い、定着を図るようにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県や市の平均より低い。 ○意見の共通点に着目して、司会者の発言に適する内容を書くことについては、市の平均とほぼ同じではあるが、県の平均を上回った。 ●聞いた話をもとに、自分の考えを理由を挙げながらまとめることに課題が見られる。	・1分間スピーチなどで、相手意識をもって話す機会を多く設定する。また、その際に自分の意見と同じところや違うところを意識して聞くよう指導することで、普段から相手の意見を聞いて、共通点や相違点に着目できるようにする。
書くこと	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○指定された長さで文章を書いたり、アンケートから読み取れた事実をもとに、そのことについて1つの段落にまとめて書いたりすることがよくできている。	・授業で文章を書く際には引き続き、教師から文字数を指定するなど、一定量の文章を書く機会を設けていくことに加え、内容についても充実させることができるよう指導していく。 ・グラフや図などの資料を読み取り、文章を書く際には、事実と考えを区別して書くことができるようにする。
読むこと	平均正答率は県や市の平均より低い。 ○登場人物の気持ちについて叙述をもとに捉えることができていない。 ●登場人物の性格について具体的に想像したり、登場人物の気持ちの変化について、複数の叙述をもとに具体的に想像したりすることに課題が見られる。	・物語文を読む単位では、書かれている言葉の意味1つ1つに注目させて読みを深め、登場人物の気持ちを叙述を基に捉えることができるようにする。 ・授業で自分の考えを書く際には、共同閲覧機能等を活用して友達と書いた内容について交流することで、様々な表現に触れられるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.2	59.7	59.2
	図形	48.0	52.1	52.1
	変化と関係	51.5	56.1	56.3
	データの活用	66.2	60.1	58.9
観点	知識・技能	65.3	65.5	65.1
	思考・判断・表現	40.6	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

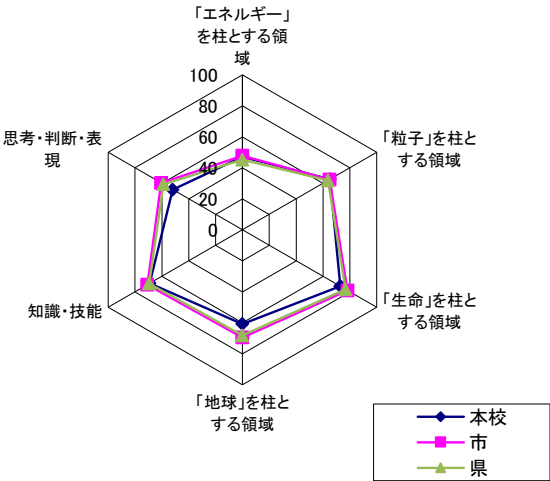
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県の平均と同じであり、市の平均よりやや低い。 ○大きい数のしくみについては理解ができています。 ○あまりのあるわり算の計算はよくできています。 ●数直線上に示された数を仮分数で表す問題や式の意味を言葉で説明する問題では、正答率が市や県の平均より低いだけでなく、無回答も高く、課題が見られる。	・分数については、分数がでてきた場合に数直線や面積図を使って大きさをイメージさせる活動を繰り返し取り入れることで理解を深めていく。また、仮分数に直すことについては、朝の学習(がっちりタイム)やAドリルを活用し復習の機会を設ける。 ・文章問題を解く学習では、数直線を使って数の関係を整理する活動を取り入れ、図をもとに立式ができるようにする。
図形	平均正答率は県や市の平均より低い。 ○ひし形の作図については、図形の性質を理解し、コンパスや定規を用いて正確に描くことができています。 ○複雑な図形の面積の求め方として正しい式を選ぶことができています。 ●身近な物の面積について正確な単位を選んだり、面積の単位関係を説明したりする問題へは課題が見られる。	・面積や体積についての学習では、具体物を使ったり、身の回りの物の面積や体積を求めたりする活動を取り入れることで、実感を伴った理解が図れるようにする。 ・説明することには課題が見られたため、授業の中で考えを言葉で表現する時間をより多く設定したり、自分の考えを相手に伝え合う時間も設けたりするなど表現することを意識した指導を行う。
変化と関係	平均正答率は県や市の平均より低い。 ○表を見て、伴って変わる2つの数量の関係を見つける設問の正答率は市の平均率よりやや高くなっている。 ●数量関係を正しく図で表したり、もとの数の何倍になったかを説明したりすることに課題がある。 ●伴って変わる2つの関係について説明する設問は無回答率が41.2%と課題がある。	・倍についての問題では、もともになる数を見つけたり、図を使って数量関係を整理したりする活動を繰り返し行うことで理解を深め、5学年での割合の学習に繋げられるようにする。 ・2つの数量の変化について説明することには課題が見られるため、「増える」「減る」「倍」などのキーワードを提示し、それらを使って変化の仕方を言葉で表現する活動を取り入れていく。
データの活用	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○2つの折れ線グラフから分かることを選ぶ設問では、市の平均を26.9ポイントと大きく上回っており、必要な情報を正しく読み取ることができている。 ●二次元表を正しく読み取り、条件にあった数値を考えることに課題がある。	・二次元表を扱う機会を意図的に設け、表の見方を練習していく。 ・算数の時間だけでなく、理科や社会の時間でも表やグラフをもとに考察する機会を設け、必要な情報を読み取りまとめる力をさらに伸ばしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	47.1	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	65.2	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	72.9	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	60.8	69.5	68.1
観点	知識・技能	69.1	70.8	69.5
	思考・判断・表現	51.9	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は県の平均より高く、市の平均よりやや低い。 ○乾電池のつなぎ方とその名称を理解することがよくできている。 ●簡易検流計の針のふれ方から分かることを答えたり、電流が大きくなり豆電球が明るく光る回路を選んだりすることに課題が見られる。	・エネルギーの問題に関しては、実験を通して実体験を伴った理解をすることや、学んだことを日常生活と関連付けて捉えることができるよう指導していく。 ・回路図については、ワークシート等を活用し、実験の結果と回路の関係について理解を深められるようにしたり、AIDリルの問題も活用したりすることで、意図的に回路や検流計の仕組みについて考える機会を設定していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は県の平均より高く、市の平均とほぼ同じ。 ○金属の棒にはった示温シールを色が変わる順番に並べ替えることができています。 ●ボールに空気を入れるとはずむ理由について説明した文にあてはまる言葉を答えることに課題が見られる。また、水と空気をあたためた時の体積の変化について正しい文章を選ぶことに課題が見られる。	・粒子の問題は、実生活との関連が深いものが多いため、実験を通して学んだことと日常生活との関連について考えたり捉えたりできるよう指導していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均より低い。 ○腕を曲げた時の筋肉のようすを選ぶことができています。 ●さくらの様子がどのように変化するか理解し、あてはまるさくらの様子を選ぶことに課題が見られる。	・生命の問題に関しては、観察によって理解を深めることが多いため、観察カードの蓄積や、必要に応じて映像教材を有効に活用するなどして学習内容について定着を図っていく。その際、前回の観察時との違いにも目を向けさせることで、より実感を伴った理解へとつなげていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均より低い。 ○月の動き方と動く向きを理解し、あてはまる言葉を選ぶことがよくできている。 ●晴れの日の気温の変化のようすを選び、選んだ理由を答えることに課題が見られる。また、日なたに置いた水の量が減る理由を、蒸発によるものと理解し、水そうの水が減った理由を選ぶことに課題が見られる。	・地球の問題に関しては、実験や観察を通じた理解が重要ではあるが、観察する対象によっては、授業の時間だけで実験や観察が完了できないものも多い。そのため、必要に応じて映像教材等も活用しながら学習内容の理解を深められるよう指導していく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習面については、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定割合が88%、「家で、学校の宿題をしている」の肯定割合が100%で県や市の平均より高く、計画的に家庭学習を取り組んでいることが分かる。引き続き家庭と連携を図りながら、児童が自主的に進められるように支援していく。

○学ぶ意欲については、「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」の肯定割合が94%で県や市の平均より高く、様々なことに疑問をもち、興味や関心をもって学習していることがうかがえる。今後も引き続き、意欲的に学習できるよう工夫した授業づくりなどを行っていく。

○学校での様子について、「毎日の生活が充実している」の肯定割合が94%で、県や市の平均より高く、学校生活に満足している児童が多い。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定割合が100%で県や市の平均より10ポイント以上高い。今後も安心な学校で伸び伸びと生活していくことができるような環境づくりに努めていく。

○自分自身のことについて、「自分は勉強がよくできる方だと思う」の肯定割合は70.6%で、県や市の平均より10ポイント以上も高く、「人と話すことは楽しい」の肯定割合が100%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定割合が98.6%で県や市の平均よりとても高い。人とのコミュニケーション能力が高く自己肯定感が高いことがうかがえる。今後も対人関係の意思疎通を円滑に行えるよう、自分の考えを伝える力と相手を受け入れ聞く力を育ていき、継続して主体的に取り組むことができる工夫を凝らした授業づくりに努めていく。

●家での生活について、「ふだん(平日)一日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく。)」の質問で3時間以上と答えた児童が41.2%で市や県の平均より10ポイント以上高い。毎日時間を決めて過ごし、健やかな成長と健康のために、改めて基本的な生活習慣の大切さを家庭と協力しながら支援していく必要がある。

●社会のことについて、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の質問で肯定割合が70.6%で、「地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある。」の肯定割合が58.8%でどちらも市や県の割合より10ポイント以上低い。複雑で難しいニュースを分かりやすく伝える機会をもつことも大切である。家庭と連携を図り、身の回りや世界など幅広く目を向け興味をもち考えることができるよう支援していく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る取組	朝の活動において「がっちり学習」として、全学年2人体制で、基礎的・基本的な内容の問題に取り組む活動を実施している。また、授業においても、前学年の内容を振り返り、定着を図れるようにしている。	4年生では、国語の知識・技能の観点別の正答率が、市の平均を大きく上回った。5年生では、算数の知識・技能の観点別の正答率が、昨年度4年生だったときは市の平均を下回っていたが、今年度は正答率がほぼ同じになっている。
家庭学習の習慣化に向けた取組	3～6年生では家庭学習ノートを用いた自主学習を学年に応じた目標時間取り組むように指導している。また、年に2回「家庭学習強化週間」を全学年実施して、家庭との連携を図っている。	4・5年生ともに、自ら学習に取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強している」の設問で肯定的な回答した児童の割合は8割以上と市の平均を大きく上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年生ともに、式の意味を理解したり、数直線上の目盛りを読み取ったりする問題の正答率が市の平均よりも下回っている。	基礎的・基本的な学習内容の定着とそれに基づく知識の理解の質を高める取組	・朝の活動において、宮っ子学カステップアップシート等を活用した復習に取り組み、学習内容の定着を図る。 ・授業の中で、漢字や計算方法等の知識のみでなく、立式の意味を考えたり、授業内容を日常生活と結びつけたりするなどして、より深い理解につなげられるようにする。